

わぐら

和倉遺跡

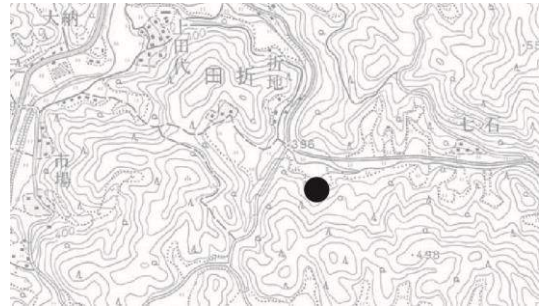
所在地 豊田市田折町地内
(北緯 35 度 2 分 0 秒
東経 137 度 19 分 14 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発
施設用地造成事業

調査期間 平成 24 年 1 月～平成 24 年 2 月

調査面積 250 m²

担当者 鵜飼雅弘・伊奈和彦・奥野絵美

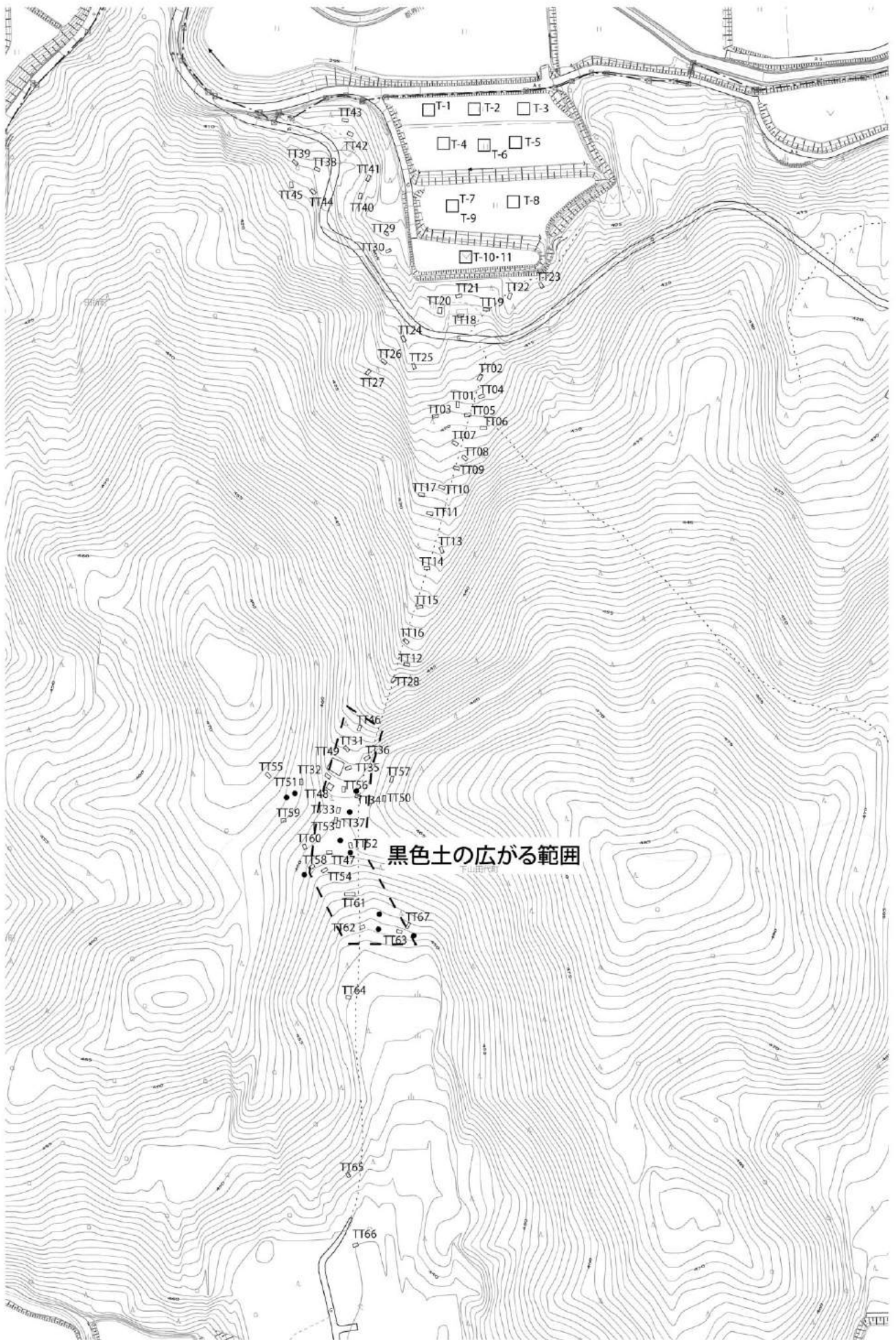


調査地点 (1/2.5 万「東大沼」)

調査の経過 和倉遺跡は県教育委員会の詳細分布調査により、遺物散布地として登録された遺跡である。豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う範囲確認調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

立地と環境 和倉遺跡は郡界川支流の沖川左岸に立地し、南西に柿根田遺跡、東に孫石遺跡、南にトヨガ下遺跡が隣接する。地形的には谷間の北に向けて開口する平坦地に立地しており現況は水田と山林になっている。現在の標高は海拔 460m 前後である。

調査の概要 試掘坑は 67 カ所 (TT01～67) 設定した。調査の結果、孫石との境界付近にある尾根上の平坦部で遺物を含む黒色土層の広がり確認できた (TT31～37、TT46～60 付近)。一方旧耕作地の南にある平坦地では黒色土層は確認できなかった (TT61～67 付近)。遺物は縄文土器・灰釉陶器・山茶碗・土師器・近世陶磁器が出土した (TT09・14・18・22・29・31・35・46・47・66)。遺構は TT15 で土坑 2 基、TT19 で土坑 1 基、TT37 で土坑 1 基が認められたが、TT15・19 の土坑に関しては近代の炭窯であると思われる。なお、黒色土が広がる範囲は、平坦部の北限 (TT46 付近) から孫石との境界線近くの尾根 (TT37 付近) までであった。また、平坦部の東西にある斜面部と尾根にも TT50～51・55・57・58 を設置し調査を行ったが、黒色土は検出できなかった。なお、この黒色土は和倉遺跡のさらに南側にも広がることと推定されたため、和倉遺跡の補足調査として、遺跡の南に位置する蔵平地区にも試掘坑を設置し調査を行った (TT47・52・54・58・61～67)。その結果、少なくとも TT67 付近までは黒色土の広がりを確認できたほか、蔵平の南の平坦部 (TT67 西側付近) で山茶碗や灰釉陶器などの遺物を多く表面採集した。
(奥野絵美)



和倉遺跡トレンチ位置図 (S = 1:2000)

しもみちやま
下道山遺跡

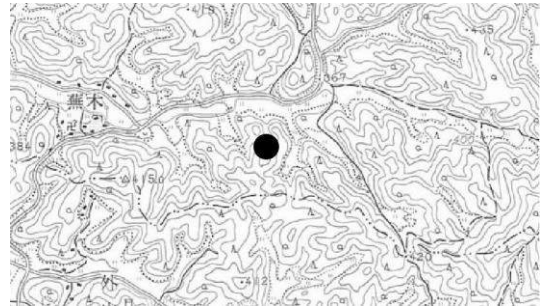
所在地 豊田市下山田代町地内
(北緯 35 度 1 分 13 秒
東経 137 度 17 分 39 秒)

調査理由 豊田・岡崎地区研究開発
施設用地造成事業

調査期間 平成 24 年 1 月～平成 24 年 2 月

調査面積 100 m²

担当者 鵜飼雅弘・伊奈和彦・奥野絵美



調査地点 (1/2.5 万「東大沼」)

調査の経過 下道山遺跡は県教育委員会の詳細分布調査により、遺物散布地として登録された遺跡である。豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成に伴う範囲確認調査として、愛知県企業庁より委託を受け実施した。

立地と環境 下道山遺跡は郡界川支流の蕪木川左岸の丘陵部に立地し、西側には桜田遺跡、道山遺跡がある。丘陵中央には南北方向へと下る沢状地形があり、それを囲むように稜線が巡っている。調査区の現況は山林である。

調査の概要 平成 19・20 年度に行われた分布調査において、山茶碗、大窯製品などが採集されており、平成 22 年度の試掘調査で、沢状地形最深部の T12 から山茶碗が出土し、稜線上の T17、20、21 では時期不明の溝と土坑を検出している。

本年度の調査は、分布調査や試掘調査での遺物採集地点や遺構検出地点を中心に、試掘坑を 30 か所 (TT01～TT30) 設定して行った。遺物包含層や、その可能性のある黒色土層を確認することはできなかった。遺構は沢状地形で炭焼窯 2 基 (TT05、06) とピット 1 基 (TT26) を、稜線上で土坑 2 基 (TT12、14) と溝 4 条 (TT08、15、20、30) を検出したが、何れの試掘坑からも遺物が出土しなかったため、遺構の時期は不明である。

地元の話では、地表面で観察できる溝は昭和時代に栗の苗を植えるために掘られたものとのことであり、このことから、稜線上で検出した遺構はこの時期のものである可能性が高い。

今回の調査では、尾根上に遺構は確認したものの、遺物は出土せず、遺構の時期を明確に特定することはできなかった。しかし、分布調査や試掘調査においては中世の遺物が数点出土しており、尾根部分に遺跡が展開している可能性もある。

(伊奈和彦)

